

口頭発表

[II-29-21_22] 栄養・飼養（II-午後）

Chairman: Taketo Obitsu (Graduate School of Biosphere Science, Hiroshima University)

Fri. Mar 29, 2019 1:30 PM - 1:50 PM 第II会場 (8号館8302講義室)

1:40 PM - 1:50 PM

[II29-22] 初産牛における乾乳期飼養法が2産次の305日乳生産性に及ぼす影響

○Tanigawa Tamako, Koyama Takeshi, Sugimoto Masahito (Dairy Research Center)

【目的】日畜第124回大会では、2産以上の乳牛では乾乳期間を40日に短縮し、低TDN飼料（TDN62%）を給与すると次産次の乳量を減らすことなく、分娩後の体脂肪動員を減じることを示した。本試験では、初産牛を用いて乾乳期飼養法の違いが2産次の乳生産に及ぼす影響を検討した。

【方法】ホルスタイン種初産牛19頭を供試した。対照区（7頭）は分娩予定60日前に乾乳し、分娩予定60～29日前は乾乳前期用TMR（TDN59%）、それ以降は後期用TMR（TDN68%）を給与した。乾乳期を短縮する区は分娩予定40日前に乾乳し、乾乳期間を通じて短縮68区（6頭）は後期用TMR、短縮62区（6頭）はTDN含量が62%のTMRを給与した。分娩後は同一の飼養管理とした。試験期間は分娩60日前～分娩後305日目とした。

【結果】対照区および短縮68区に比べ、短縮62区は分娩40～14日前の乾物摂取量およびTDN充足率が低く推移した。分娩後の乾物摂取量およびTDN充足率は区間に差がなかった。305日間の4%乳脂補正乳量は対照区8,725kg、短縮68区8,678kg、短縮62区7,899kgで、短縮62区が低い傾向にあった。乳成分率は区間に差がなかった。初産牛では乾乳期間を40日に短縮しても2産次の乳量は低下しないが、低TDN飼料を給与すると乳量が減少することが示された。